

研究課題（テーマ）		課題発見・問題解決能力を育成するデザイン思考の実施体制構築にむけた 実践支援要員の育成	
研究者	所属学科等	職	氏 名
代表者	データサイエンス学科	教授	高木昇
研究結果の概要			
卒業後のキャリア形成を見据えた情報工学部2年次生対象「デザイン思考」を2025年度からスタートさせた。知能ロボット工学科/情報システム工学科/データサイエンス学科から160名が2曜日、40名×4組の講義、4-5名程度の小グループに分かれて実践的な活動に取り組む講義である。実践内容の状況把握、多くのアイデアから自ら解を見つける「デザイン思考」のポリシーに沿った支援業務が可能な実践支援要員（TA）6名を養成した。2024年度は試行授業における実習業務、およびデザイン思考ファシリテータ研修を通して、情報工学部のカリキュラムを経ていない学生が教員、受講生を適切に支援できる能力を身につけてもらった。習得内容の主な項目を次にあげる。 [1] 2024年度後期トピックゼミ（県内企業と連携したデザイン思考）での運営管理補助 [2] ファシリテータ研修受講による実践支援に必要な知識、助言能力 [3] 県内企業との連携を通しての県内企業ニーズの把握 2024年度中のトピックゼミにおけるデザイン思考の試行授業では、講義スケジュール、実践ワークの内容およびプロセス、ワークに必要な教材・機器の維持管理等について教示を受けた。ファシリテータ研修においてはデザイン思考の関連知識についてさらに理解を深めたほか、自ら実践型ワークなどにも取り組み、受講生が直面しがちな問題、行き詰まりポイントを理解してもらった。さらに発散思考を促進させるための適切な助言能力を習得してもらった。			
今後の展開			
2024年度に研修を受講したTA候補者には、2025年スタートの「デザイン思考」において支援業務に従事してもらう。実践内容、進捗状況を共有するための情報端末等を整備し、学生-担当教員間におけるサブ教材、成果物等の資料作成、課題共有業務を補助できるようにする。このほか、2026年度スタートの実践デザイン思考における企業との連携支援業務を習得するプログラムを計画する。			